

令和5年12月

令和5年度現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業
第2回評価検討委員会協議事項まとめ

岐阜女子大学

<評価委員意見のまとめ>

協議1 小中連携教育コーディネータの必要性について

中学校実務経験3年目以上の教員が新たに小学校教諭二種免許状の取得を目指す場合、小中連携教育コーディネータの資質能力を中心とした小学校の養成課程の内容を学修することにより、小中連携の教育をスムーズに実施することができると考えています。そしてそのような学修を実施した人材を「小中連携教育コーディネータ」として位置づけ、新たなキャリアとしていく方向性を考えました。この「小中連携教育コーディネータ」の必要性について、委員のご意見等をお聞かせください。

【資料】

- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.6-7）
 - 第2講 小中連携教育コーディネータ
 - 1. 小中連携教育コーディネータ

【意見】

- 児童生徒の連続した理解と指導方法の向上に向けて小学校と中学校が連携した新たな教育の在り方が求められている中、中学校の先生方にとって現代の小学校教諭の教育内容の正確な理解を得る場が設けられることは、大変意義あるものとする。
- その位置づけとして、「小中連携教育コーディネータ」は、今後児童生徒にとっても、教育現場においても意義ある役割を担うものと思われる。
- 義務教育9か年を見通した指導を行うことは、小・中学校の教員であれば必要なことではある。
- しかし、その基礎となる小・中の教員免許の併有率が、特に沖縄県内の中学校においては全国平均を大きく下回っている現状を鑑みると、「小中連携教育コーディネータ」のような存在は必要であるとする。

- 人事交流は難しくても、乗り入れ指導が活発化することが小中の学びの円滑な連携に繋がると考えられることから、「小中連携教育コーディネータ」の必要性は高いと考える。
- 中学校教諭が小学校の養成課程の内容を学修することは大変意義深く、必要性があると考え。発達の段階に応じた指導方法の工夫や教材開発も多く見られる面からも「小中連携教育コーディネータ」は必要ではないかと考える。
- 沖縄県においては、小中連携を市町村教育委員会の主導で推進していることが多く、公務掌のひとつとして「小中連携担当」を設置したり、市町村によっては退職教師を小中連携コーディネータとして雇用したりしている。これらの担当者にとって、小中の発達段階や系統性を踏まえた教科等の指導の充実や、それを計画的に実施し将来にわたって持続させていくために必要な教育課程の見直しなど、カリキュラムマネジメントに関することが今後必要になってくると考える。
- しかし、沖縄県では、小中の人事交流はあまり行われておらず、小中双方の教育課程を、実際に教えたことがあるなどという実感をもって理解している人材は少ない。
- 小中連携を校内にあって推進できる人材は貴重であり、その養成に教員の養成や育成に実績のある岐阜女子大学が取り組むことへの期待は大きい。
- 現在、沖縄県全体にコーディネータに対するニーズやウォンツがどの程度あるかは未確認である。小中連携の意義は理解されているため、校内にそれを推進できる人材がいるとなれば、ポストを設けて推進しようとする校長も増えていくと考えられる。むしろ、人材育成を先に進める事で、小中連携の推進を後押しすると考えることもできる。
- 小中免許状を併有した者を「小中連携コーディネーター」としてブランディング化、ラベリングすることは、教員自身の意識づけや校内における位置付けの明確化、校長による校内分掌の検討の上でも大変重要なことだと考える。

小中の人事交流はあまり行われておらず、小中双方の教育課程を、実際に教えたことがあるなどという実感をもって理解している人材は少ない。

協議2 小中連携教育コーディネ

一タのカリキュラムと資質能力について

「小中連携教育コーディネータのカリキュラム」は、以下の4つの観点により構成しています。

そして、「小中連携教育コーディネータの資質能力」のは以下の6つのカテゴリーにより構成しています。

そこで、このカリキュラム並びに、資質能力が、「小中連携教育コーディネータ」として適切であるかについて、委員のご意見等をお聞かせください。

【資料】

- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.8-9）
 - 第2講 小中連携教育コーディネータ
 - 3. 小中連携教育コーディネータ養成カリキュラム
- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.11-13）
 - 第2講 小中連携教育コーディネータ
 - 3. 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力の構造化

【意見】

- 特に、4のインストラクショナルデザイン指導力に関しては分析、設計、開発、実施、評価のプロセスの中で、小中連携教育コーディネータのとして教材の作成から教師個人の教授力のブラッシュアップにつながるものと期待される。
- カリキュラムに関しては、資質能力で「生徒指導」が記載されているだけに、子供の発達段階に応じた生徒指導や教育相談の在り方などを明記してもよいかと考える。
- 岐阜女子大学が設定しているカリキュラムは先進的であり、テキストとオンラインを活用しながら自らに必要な資質能力を自ら取りに行くような学びを経験することにより、「受身」から「主体」へと転換され、いわゆる「学びの相似形」を実現するものとして大いに期待できる。

○教職の世界も同様に、テキストとオンラインの様な新しい技術を活用し、やりたいことを効率よく学び、空いた時間を自分を更に高める別のことに使うなどして多様に学ぶというふうに変わっていても良いのではないかと思う。

○6つのカテゴリーすべてにおいて、小中連携におけるコーディネータとして必要な資質能力が統合されていると考えられる。

○6つの資質の能力の理解と向上に向けて、小中連携教育コーディネータのカリキュラム及び開設科目が設置されており、教員の資質向上と新たな時代の小学校と中学校、連携に伴う学べるものとする。

○特に「義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持ちつつ指導する力」が最初の柱として位置付けられていることは意義深い。この視点をカリキュラムに入れることは、教職員にとっても視野を広げることになるだろう。

○6つのカテゴリーについても概ね適当だと考える。6つのカテゴリーはそれぞれ必要ではあるが、何を優先すべきか、という点についても検討いただきたい。

○資質能力に関しては、「エージェンシー」にも触れた方がいいと考える。」

○小中連携教育コーディネータに求められる資質・能力として、コミュニケーション能力と、失敗から立ち上がるレジリエンスの能力や考え方を学ぶことを提案したい。

○コーディネータには、人に対する偏見や先入観を持たず、管理職や地域人材も含め、関係者と積極的に交流を図るというコミュニケーション能力や、校内の教師同士が互いにコミュニケーションしようとする雰囲気を作る能力を求めたい。

○レジリエンスに係る能力は、コーディネータ本人にとっても、コーディネータとして勤務している学校にとっても、求めたい資質・能力である。

○資質能力で特に大切な点は、「小中連携教育コーディネータ概論」8ページの(1)、(2)だと思う。つまり、義務教育段階9年間を俯瞰する視点や、教科横断的な視点を持つことが大切である。

協議3 小中連携教育コーディネータ養成の科目内容について

小中連携教育コーディネータ養成における実施科目の内容について、委員のご意見等をお聞かせください。

【資料】

- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.9--13）

第2講 小中連携教育コーディネータ

小中連携教育コーディネータ養成コース

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力の構造化

<作成科目のテキスト（5科目）>

- ・小中連携教育コーディネータ概論 テキスト
- ・初等教科教育法（音楽） テキスト
- ・初等教科教育法（理科） テキスト
- ・生徒指導論（進路指導を含む） テキスト
- ・教育相談Ⅱ（カウンセリングを含む） テキスト

※テキストは、後日送付させていただきます。

【意見】

- 岐阜女子大学独自科目である小中連携教育コーディネータ概論を必修科目的な位置づけとして、義務教育9年間の連続した発達等を踏まえた教育内容をおさえ、小中の連携の持つ課題等に対応できる資質を養うものと思われる
- 各教科の指導法に関しても中学校の教員の視点から小学校の教員の視点にフォーカスすることが求められるため、他の科目も開講され、受講者の先生方のニーズに応えられることが求められる。
- 音楽については、指導経験がない方にとってはやや取り組みづらく、難しい内容かとも感じたが(私個人の感想です)、学級合唱に関して小中ともに指導に力を入れている学校が多いことから、知っておくべき内容である。
- 理科に関しては、いかに子供たちに課題意識を持たせて、自ら解決していこうとする意欲をいかに持たせるかが重要である。単に学習で終わらずに、得た知識や技能を実生活でどう生かしていくかという視点も持たせるような、指導のスキルも育てる内容にしていきたいと感じた。
- 生徒指導論・教育相談に関しては、多くのテーマが網羅され、実施科目としての十分な内容を含んでいるものと思う。

- 生徒指導や教育相談等がそれぞれ1単位ずつ設定されていることは大変良いと思っている。しかし、設定された時間数が、テキストの内容や重要性を踏まえると8時間では少ないのではないかと思う。
- 小中連携教育コーディネータ概論の(5) ICTや情報・教育データの利活用については、教育DXが進む中、授業改善や校務の見直しを進める中で非常に重要な内容であると思う。児童主体のICT活用やそのための授業実践の構築のという視点も重要ではないかと思う。
- 生徒指導内の「不登校」については、いじめ等と含め問題行動的な捉えや取り扱いが気になった。文科省も、特定の子どもに特有の問題があることによって起こることではなく、「誰にでも起こりうる」という捉え方になっていることから、そのあたりについても触れて欲しい。
- 生徒指導論において、キャリア教育について触れているが、まずは「自分を知ること」、自分の好きなこと、得意なことを知ること等にも触れてはどうかと思う。
- 「生徒指導論」「教育相談Ⅱ」については、いじめや不登校に関しては、対応策だけでなく未然防止の視点で、よりよい人間関係作りについて、その理論やスキルを身につける内容をさらに充実させてほしいと感じた。保護者対応についても、もう少し誌面や時間をかけてもよいかとも感じた。また、いじめと認知されても、被害者と加害者がはっきり線引きできないような事例もあることから、双方の安全や人権を守り、よりよい人間に育てる契機となるような対応についても、今後内容に盛り込んでもらえたらと思う。
- 適切だと思う。時代に合わせた教育観や指導方法を身に付けてほしいと思う。
- 校長の意を汲み、組織としての経営について理解しなければ、コーディネータは活躍できない。コーディネータ養成科目に、学校経営やマネジメントに関することがあっても良いのではないか。

協議4 その他

その他、お気づきの点がございましたら、委員の皆様のご意見をお聞かせください。

【意見】

- 多くの先生方に、このようなカリキュラムが提供され小学校との連携、連続した義務教育の充実につながることを望む。
- このような、コーディネータの仕組みが、整えられ広く認知されるための取り組みが活性化されることと受講された先生方からの実際の受講後の質的量的なデータ等の分析から、より充実した講座になるものと思う。
- 教職員が不足し、現場の多忙感が増している状況下で、教師自身が自己のスキルアップのための時間を生み出しづらくなってきている。教師自身も学びたい、学ぶ時間が確保される体制づくりが必要であるとともに、資格取得がスキルアップ、そしてキャリアアップ(待遇面含む)に繋がることも、学ぶモチベーションに繋がるかと考える。
- 机上の理論だけではなく実践が大事なものは重々承知の上で、学び続ける人が待遇面でも少しでも得するようになる仕組みがあるといいと提言したいのだが…。
- 教育センターや教育研究所の長期研修員が、自身の研究と並行してこのカリキュラムに取り組む時間的余裕があるのか検証し、あるなら、研修プログラムに盛り込んでもいいかなと感じた(自治体とのタイアップが必要だが…)。
- ぜひ今後も、このカリキュラムで学んだことが即現場での実践に繋がり、学ぶ楽しさを教師自身が実感できる、学校や教師が抱える困り感を解消できるような、最新の教育事情を踏まえた事業であり続けることを期待する。
- 岐阜女子大学のカリキュラムは先進的であり、児童生徒に主体的に学ことを求めるのであれば、教師もこのような学びを経験し、これからの時代の学びを実感を持って理解する必要がある。
- 岐阜女子大学への要望として、小中連携教育コーディネータのカリキュラムを応用して、管理職や、管理職を目指すミドルリーダーが教育を学び直すとともに、学校経営や人材育成等のマネジメントについて学ぶような、有料の講座を設けることはできないか。その際、島嶼県であるという本県の弱みを克服するために、他県の先生とのオンライン交流があると更に良いと思う。是非、御一考いただきたい。
- 大事な事業だと思います。引き続きよろしくお願ひいたします。